

地域貢献活動支援報告書

社会連携研究センター長 殿

所 属 人文学部文化学科
氏 名 塚本 明

活動テーマ	大学・市民連携による持続的地域文化運動の構築 ～熊野市歴史民俗資料館架蔵古文書の調査と活用Ⅱ～
実施期間	平成 24 年 6 月 1 日 ～ 平成 25 年 3 月 24 日
活動内容	<p>本事業は、熊野市域に豊富に残る古文書史料を、熊野市教育委員会の協力の下、地元市民グループ・熊野古文書同好会と共同で学術調査を行うもので、2008 年～2009 年度に実施した熊野市大泊町善根宿納札調査（調査対象となった「納札」は後に三重県指定文化財に登録）、2010 年度の湯谷かやのき資料館所蔵文書の調査に続くものである。</p> <p>（１）具体的な活動実施内容</p> <p>8 月に予備調査を行った後、9 月 28～30 日に第 1 回集中調査を実施した。参加者は三重大側 11 名（教員 1 名、学生等 10 名）、熊野古文書同好会 6 名、延べ人数 50 名であった。長井文書、木本資料を中心に整理を行い、人別関係や信仰に関する史料などを見出した。調査中に熊野市教育長の訪問も受け、今後の事業展開を相談した。</p> <p>昨年来、奥熊野の育生町に残る貴重な史料の保全を課題としていたが、2013 年 1 月に教育委員会・更屋好年氏のご案内で同地区を訪ね、特に粉所区文書に接し、有木区長とも相談の上、調査を手掛けることにした。</p> <p>同年 3 月 10 日には、熊野市文化交流センターで、歴史民俗資料館所蔵史料調査の報告会（熊野市民大学を兼ねる）を開催し、「熊野の古文書に見る家族の群像－結婚・養子・引越・旅立ち－」と題して講演を行った。市民 70 名が集まり、好評であった。熊野歴史民俗資料館でいずれ展示に用いる際の参考資料として、史料の翻刻文と解説文も添付した。なお、報告会の様子は翌日の新聞各紙（中日、毎日、南紀新報、吉野熊野新聞）でも報道された。</p> <p>3 月 15 日に古文書同好会・熊野市教育委員会と共に粉所区を訪れ、予め粉所文書を借用した上で、3 月 21 日～23 日に本年度第 2 回目の集中調査を実施した。三重大側の参加者 17 名（教員 1 名、学生等 16 名）、熊野古文書同好会 10 名、延べ人数 71 名である。内容を検討しつつ、調査カード 200 枚余を作成した。林業経営に関わる史料や村の惣有地、寺の祠堂田、伊勢講に関する史料など、奥熊野の山村の生活を知る上で興味深い文書が豊富に見出された。</p> <p>最終日には粉所区を訪ね、区会所にて地元の方 6 名（全区民 13 名の「限界集落」である）と交流を図った。参加学生たちが古文書の内容を発表して区民の皆さんに聞いて頂き、好評であった。調査や交流会の様子は、新聞でも詳しく報道された。</p>

(2) 地域への貢献

熊野市域には、豊富な古文書が残されているものの、古文書を扱う専門職が不在のため、十分な活用がされてこなかった。本事業の調査により、熊野市域の古文書史料の全貌を明らかにし、将来の活用につなげていくことを、熊野市教育委員会からも要望されている（同時に、様々な形で継続的な支援を約束下さっている）。集中調査・成果報告会・交流会などについての地元新聞の報道に見るように、熊野市域の文化活動や歴史像解明に大きく貢献するものと期待されてもいる。

また、熊野古文書同好会は崩し字史料の解読会を定期的に行っているが、古文書を学術的に読み解くことは十分に習熟している訳ではない。そのため調査中に随時古文書から史実を把握するためのミニ講習を行い、文化財の取り扱いに関する技能を地域社会に伝えることに努めている。なお、古文書同好会会員は、新年度から地元新聞に古文書の内容を分かり易く紹介する連載を計画しており、その指導も依頼されている。

(3) 共同実施者との連携状況

熊野古文書同好会とは、今年度2回実施した集中調査において共同して作業を行ったほか、現地見学会、成果報告会などを通して密な交流を行った。熊野市教育委員会からは、古文書の所在調査、調査の成果報告会、区民との交流会などにおいて、熱心な御支援を頂いた。県立博物館では、今年度から熊野市五郷町柳谷の民俗調査を進めているが、奥熊野の生活実態の研究として連携して調査を進めることを相談している。

(4) 大学の教育・研究成果とのかかわり

集中調査で撮影した古文書史料を、大学でのゼミ演習などで活用するなど、教材としても利用させて頂いている。今後、学生・院生による研究成果が生まれることも期待している。また、原文書を直接扱うことで、学芸員の実務仕事の一部を体験することになっている。

現地に赴き、原文書を用いて調査を行う機会は、学生にとって貴重な経験であり、参加した学生には学ぶ意欲の向上が顕著に見られる。また地元の社会人の方々と共同で作業し、交流することによる社会的経験値の高まりも大きい。特に第2回目の調査で粉所区を訪ねて地元の方に古文書の内容紹介を学生たちが担当したが、これは説明・情報発信能力を向上させる上でも意義深かったと思われる。

(5) イベント等開催実績（名称、実施場所、参加人数等）

熊野市歴史民俗資料館所蔵文書調査、熊野少年自然の家、延べ50名（第1回）、延べ71名（第2回）。

古文書調査成果報告会（講演）、熊野市文化交流センター、70名
古文書調査成果報告・地元との交流会、熊野市粉所区会所、28名